

## 東京「駆け足めぐり」(3)

築地で腹ごしらえをして、「月島」に向かった。とくに目的もなかったが、東京下町の雰囲気を感じた。隅田川をはさんで、聖路加病院のタワーが見える。前にタワーの47階、高さ200mもある展望室から築地や月島など、東京の景色を眺めたことがある。築地市場も全体がよく見える。ここは無料でもあり、東京の変貌を空から一望でき一見の価値がある。

駅近くの佃地区は江戸幕府が大阪の摂津佃村の漁民を移住させ、つくられた町という。徳川家の台所を支えていたわけだ。確か大阪西淀川にも佃という地区があったと思う。東京と大阪の歴史的なつながりが感じられる。



佃島には橋がなく、交通は渡し船だけだったが、東京オリンピックが開催された1964年に佃大橋が完成して、陸つづきになった。佃煮の発祥地といわれる佃や月島一带は、いまでは高層マンションが林立しているが、「下町情緒」もまだまだ残っている。高層ビルが立ち並ぶ一角に低層の家屋の町並みが見える。神楽坂とは違うが、生活の匂いがする路地もある。

月島で有名なのが「もんじゃ」である。通称「もんじゃストリート」というらしいが、西仲通り商店街を中心に70軒ほどのもんじゃ店が並んでいる。通りは車を規制して歩きやすい。旅のガイドによると、もんじゃとは鉄板のうえにキャベツや好みの具をのせて焼き、ハガシというヘラで薄くのばして食べるもので、柔らかなお好み焼きのようなものだ。商店街の入口の「月島もんじゃ振興会協同組合」でもんじゃ店マップを手に入れることができる。

もんじゃ焼きの匂いに誘われて食べたくなったが、なにせ築地で美味しい寿司を食べて



から時間もあまり経っていないので、今回は我慢することにした。まさに「なんじゃ、もんじゃ」という感じが。

(2007年2月25日 記)